発達支援サポーター等育成研修
「地域連携講座」

保・幼・小の連携を視点に

発達に課題がある児童への支援

深谷市立桜ヶ丘小学校　　教諭　　黒澤　有香

令 和 ３ 年　１ 月

本日の流れ

１　　地域　学校　自己紹介

２　　連携の輪が広がる　平成～令和へ

３　　情報をつなぐ

４　　チームで支援

1　紹 介

埼玉県の北部に 位置する

1　紹介

深　谷　市

- レンガの街 「深谷駅」

渋沢栄一翁

1　紹 介

② 本 校

深谷市立桜ヶ丘小学校

・開校64年目

・児童数　548名

・教職員数　32名

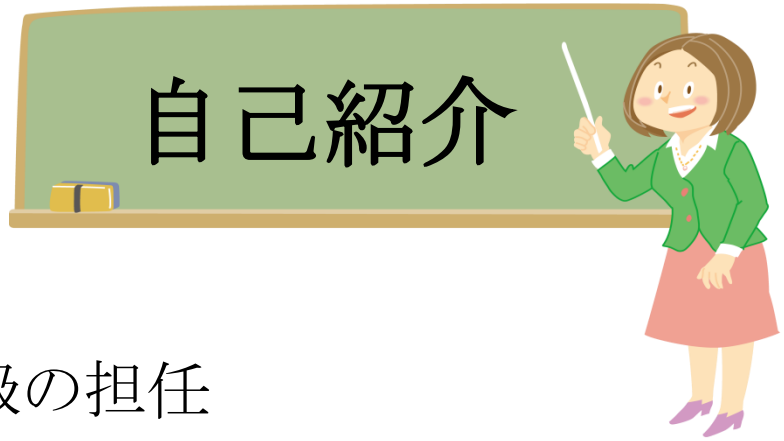
・学級数　19学級

内　知的障害特別支援学級　1学級

自閉症情緒障害特別支援学級　1学級

・桜ヶ丘幼稚園が 併設(敷地内)

③　自己紹介



- 通常の学級の担任

- 知的障害学級の担任
- ・ 特殊学級といった時代～特別支援学級となった
- 「特殊教育から特別支援教育へ」

- ・ 新たな役割
- ＜特別支援教育コーディネーター＞
- 現在に至る
- 自閉症情緒障害特別支援学級の担任に
- なって10年に

２　連携の輪

特殊教育から特別支援教育へ

平成19年度（2007年）の改革

特別支援教育

○　通常の学級に在籍する、特別に配慮が必要なすべての児童生徒に対して全職員が指導や支援する。

○　担任は支援者の要であるが、校内の教師がチームとなって、校内支援体制を作り、児童生徒の指導支援にあたる。

○　特別支援教育コーディネーターを指名し、校内委員会を設置運営する。

○　個別の教育支援計画（ABプラン）を作り活用する。

２　連携の輪が広がる

（１）　児童のことを知る。（情報収集）

深谷市立
教育研究所

- 保護者との連携
- 園との連携　：　入学の前から
- 関係機関との連携

教育相談や
検査等

（２）　情報や助言からねらい や 指導・支援方法を計画する。

２　連携の輪が広がる

関係機関との連携

① **医療機関**　カウンセリング　診断
療育

② 深谷市内　**通級指導教室**

③ **深谷市役所　子ども青少年課**
福祉課

外部相談機関

３　情報をつなぐ　①

情報がえられる機会

９月下旬　・主な保育園等に連絡　(教頭)

１０月上旬　・就学時健康診断　実施 (保健主事)

１１月　・フリー参観の連絡・通知　(教頭)
・主な園との連絡会　本校にて　(主幹)
・入学予定者を招待（教頭・主幹）
「なかよしになろうの会」　１年生　生活科

１月下旬　・保育園幼稚園への訪問

主幹・保健主事
養護教諭　・　コーディネータ
保護者との教育相談

・関係する園への訪問
・保育参観
・担任から情報収集

情報をつなぐ　②

- ２月　　・入学説明会　　園児　体験入学
- これまでの情報はその都度、一覧表に記入される。

- ３月中旬　　新１年生の学級編制
- 幼稚園から　個別の支援計画

新年度
- ４月　入学式
- ６月　フリー参観実施　　地域の保育園等に案内文を送付

情報をつなぐ　③

保護者より・保健関係

氏名・在園名等

幼・保の視点　／
一日入学

就学時健診様子・
知能検査

前	かな	性別	生年月日	在園名	幼・保の視点	一日入学	左利き○	就学時健診から	知能点数	言葉数	保護者より	保健関
				第2園								
				幼児園							相談希望　アレルギー関係	
				第2の保育園								
				保育園								
				保育園								
			7	幼稚園	知的に低い。指示が理解できない。			指示の確認聞き返しが多い				
				保育園				指示理解ができない　取りかかりや作業が遅い　多弁・独り言が多い				
				幼稚園								
				保育園	指示理解がやや難しい。保護者が保育園の送迎ができないため、欠席してしまうことがある。							
				保育園	多動。常に何か声を発し、動いている。事前に見学に来たが、さくら学級、1年生ともに教室に入ることはできなかった。			取りかかりや作業が遅い				
			H26.9.17	幼稚園				コミュニケーションがとれない　指示理解ができない　多動・衝動性が著しい　注意・集中が続かない　姿勢保持が困難　多弁・独り言が			相談希望	

連携している保育園の先生から

- 毎年の連絡会はありがたい。
- 小学校に繋がるので安心。
- 配慮が必要な家庭について理解し、継続して欲しい。

○ 卒園までに身に付けるべきことを、学校の立場として具体的に知りたい。

○ 特別な配慮とは、どの程度のことを言うのか。

３　情報をつなぐ⑤

連絡会等を通して

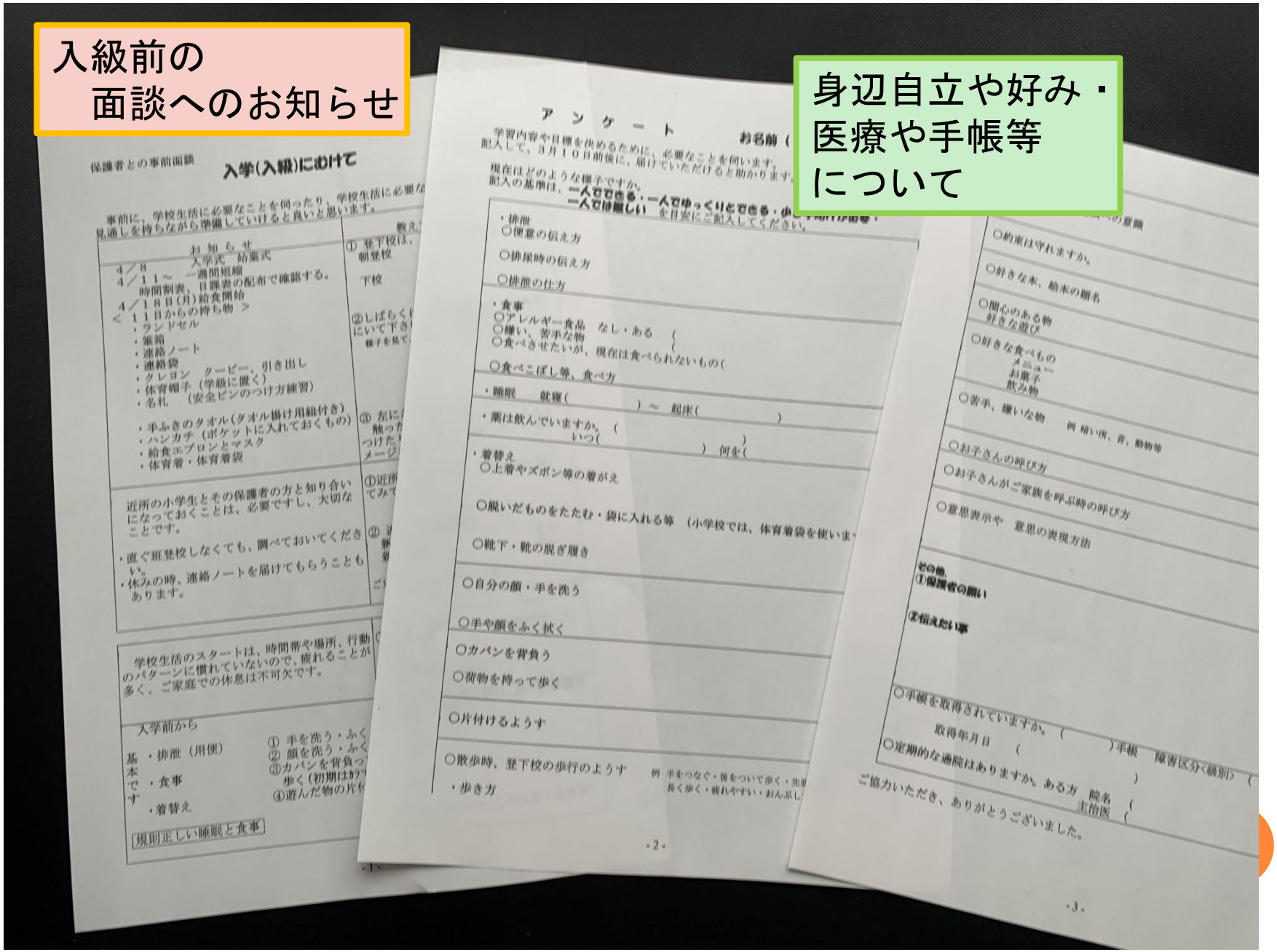
- 小学校として
  連絡会、保育参観等をとおして、学校では得ることが難しい内容を、教えていただけるので、有り難い。
  何を配慮すれば良いか、手がかりになる。

園児の様子に特徴があるか教えほしい。

- ・身辺自立の程度　　・集団参加の様子
- ・行動の特徴　　・登園の状況
- ・特別に気になること　　等

入級前の
面談へのお知らせ

身辺自立や好み・
医療や手帳等
について



情報をつなぐ　③

保護者より・保健関係

氏名・在園名等

幼・保の視点　／
一日入学

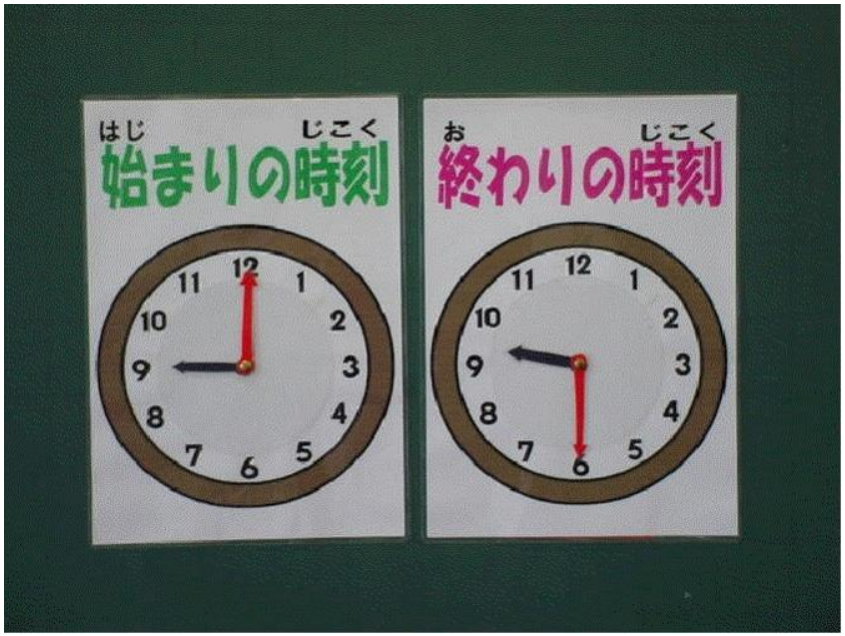
就学時健診様子・
知能検査

前	かな	性別	生年月日	在園名	幼・保の視点	一日入学	左利き○	就学時健診から	知能点数	言葉数	保護者より	保健関
				第2園								
				幼児園							相談希望　アレルギー関係	
				第2の保育園								
				保育園								
				保育園								
			7	幼稚園	知的に低い。指示が理解できない。			指示の確認聞き返しが多い				
				保育園				指示理解ができない　取りかかりや作業が遅い　多弁・独り言が多い				
				幼稚園								
				保育園	指示理解がやや難しい。保護者が保育園の送迎ができないため、欠席してしまうことがある。							
				保育園	多動。常に何か声を発し、動いている。事前に見学に来たが、さくら学級、1年生ともに教室に入ることはできなかった。			取りかかりや作業が遅い				
			H26.9.17	幼稚園				コミュニケーションがとれない　指示理解ができない　多動・衝動性が著しい　注意・集中が続かない　姿勢保持が困難　多弁・独り言が			相談希望	

規律ある学級作りのために

〇正しい姿勢
ピン･ピタ･グー

〇活動の時間を指示
はじめ　→　おわり



規律ある学級づくりのために

〇視覚的指示　出し方　児童に分かりやすい例

『朝自習』

『業前運動の準備』

特別支援教育の視点を生かした
授業　・　学級経営

小学校の先生のための

特別支援教育の視点を生かした

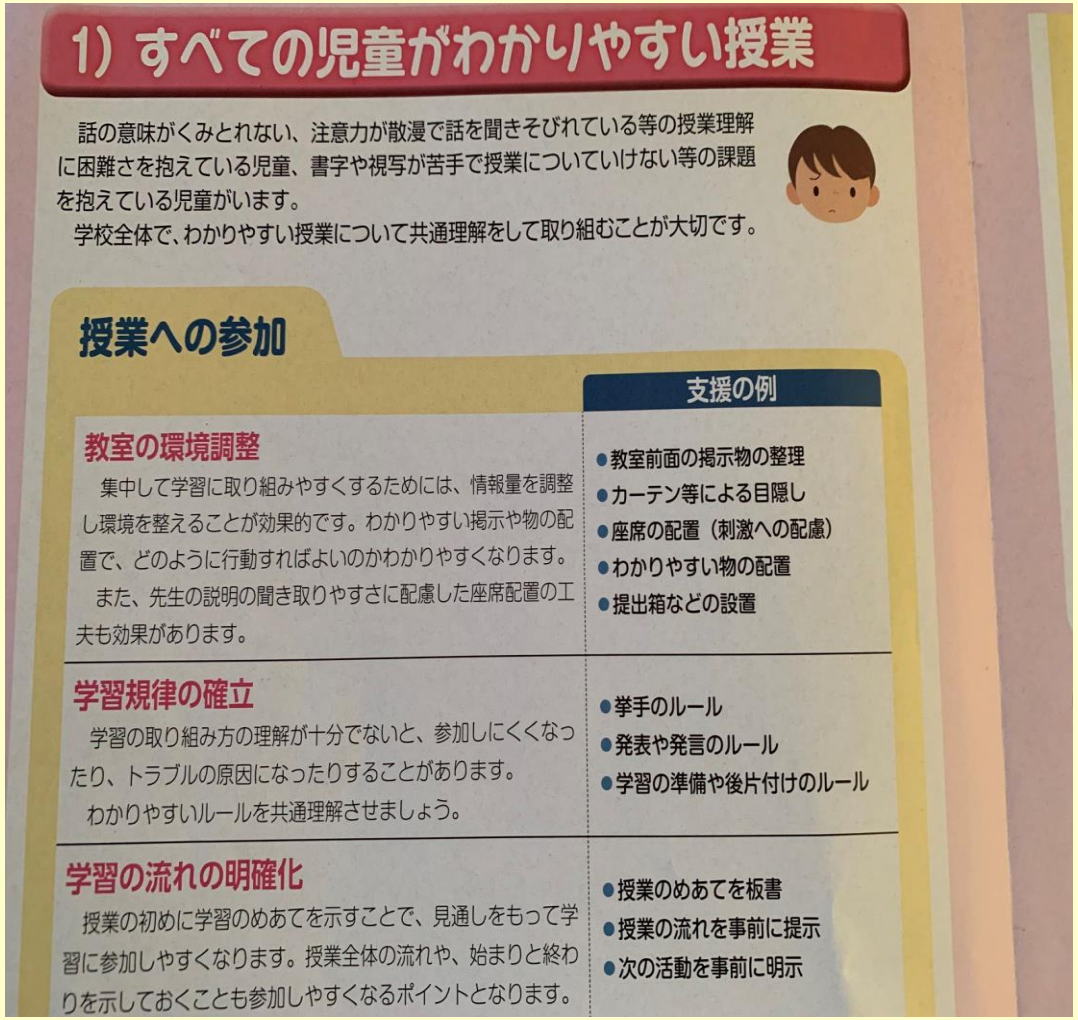
授業・学級経営

学校には、発達障害を含む特別な教育的支援を必要とする児童がいます。学習や学校生活で様々な課題を抱えやすく、様々な状態像を示すので、一人一人に応じた指導や支援を行うことが大切になります。

特別支援教育の視点を生かした授業づくり、学級経営をすることによってすべての児童にとってわかりやすい授業を展開することができ、安心して過ごしやすい学級をつくることができます。また、学力の向上や不登校の未然防止などへの効果も期待できます。

平成26年3月

埼玉県教育委員会



1) すべての児童がわかりやすい授業

話の意味がくみとれない、注意力が散漫で話を聞きそびれている等の授業理解に困難さを抱えている児童、書字や視写が苦手で授業についていけない等の課題を抱えている児童がいます。

学校全体で、わかりやすい授業について共通理解をして取り組むことが大切です。

授業への参加

	支援の例
教室の環境調整 集中して学習に取り組みやすくするためには、情報量を調整し環境を整えることが効果的です。わかりやすい掲示や物の配置で、どのように行動すればよいのかわかりやすくなります。 また、先生の説明の聞き取りやすさに配慮した座席配置の工夫も効果があります。	●教室前面の掲示物の整理 ●カーテン等による目隠し ●座席の配置（刺激への配慮） ●わかりやすい物の配置 ●提出箱などの設置
学習規律の確立 学習の取り組み方の理解が十分でないと、参加しにくくなったり、トラブルの原因になったりすることがあります。 わかりやすいルールを共通理解させましょう。	●挙手のルール ●発表や発言のルール ●学習の準備や後片付けのルール
学習の流れの明確化 授業の初めに学習のめあてを示すことで、見通しをもって学習に参加しやすくなります。授業全体の流れや、始まりと終わりを示しておくことも参加しやすくなるポイントとなります。	●授業のめあてを板書 ●授業の流れを事前に提示 ●次の活動を事前に明示

4　チーム支援　②

一人一人の児童を大切に

います。
　児童の興味・関心の持ちやすい教材を提示することなども、学習への意欲を高め、理解を深めることができます。

明確に指示
- 実物の提示
- ICT の活用

個に応じた支援
　児童は様々な特性をもち、得意、不得意などがあります。学習への理解を深めさせるためには、一人一人に応じた支援を工夫することが大切です。

- 机間指導時の支援
- プリントの活用
- スモールステップ
- 学習量の調整

実際に活用可能な
教材教具

2) 一人一人の児童を大切にした学級経営

　支援の必要な児童もそうでない児童も、学校生活の中で安心して生き生きと活躍するためには、一人一人を大切にした学級経営が必要です。

●ていねいな児童理解
　個性豊かな児童たちは様々な背景をもっています。目の前の行動だけを見るのではなく、児童の気持ちを読み取りながら、ていねいに実態を把握します。保護者との日頃からの連携や、教師間での話し合いなどにより把握しやすくなります。

●学級ルールの明確化
　一日の流れや一週間の流れ、学級のルールなどを明確にし、見通しをもたせることで、安心して学校生活に取り組めます。言葉だけではなく目に見える形で提示することにより、よりわかりやすくなります。

丁寧な児童理解

学級のルールの
明確化

授業の工夫や学級経営のポイント

学習形態の工夫 一斉指導やグループ指導などの学習形態を工夫することで、学習内容の理解を深めたり、意欲を高めたりすることができます。	●話し合い活動 ●発表 ●役割分担
指示・提示の方法 指示を出す時は、できる限り具体的にします。「きちんと」「ちゃんと」などのあいまいな表現だと戸惑ってしまう児童もいます。 児童の興味・関心の持ちやすい教材を提示することなども、学習への意欲を高め、理解を深めることができます。	●具体的な言葉かけ ●どのように行動すればよいかを明確に指示 ●実物の提示 ● ICT の活用
個に応じた支援 児童は様々な特性をもち、得意、不得意などがあります。学習への理解を深めさせるためには、一人一人に応じた支援を工夫することが大切です。	●机間指導時の支援 ●プリントの活用 ●スモールステップ ●学習量の調整

2) 一人一人の児童を大切にした学級経営

支援の必要な児童もそうでない児童も、学校生活の中で安心して生き生きと活躍するためには、一人一人を大切にした学級経営が必要です。

●ていねいな児童理解

個性豊かな児童たちは様々な背景をもっています。目の前の行動だけを見るのではなく、児童の気持ちを読み取りながら、ていねいに実態を把握します。保護者との日頃からの連携や、教師間での話し合いなどにより把握しやすくなります。

●学級ルールの明確化

一日の流れや一週間の流れ、学級のルールなどを明確にし、見通しをもたせることで、安心して学校生活に取り組めます。言葉だけではなく目に見える形で提示することにより、よりわかりやすくなります。

予定の変更が苦手な児童がいる場合は、早目に変更内容を伝えることが必要です。

●肯定的な働きかけ

児童の主体的で意欲的な行動を引き出すためには、「やった」「できた」という達成感や豊かな成功体験が必要です。授業の中や学校生活の様々な場面で、児童のよいところを見つけ、積極的に認めたり、励ましたりすることが大切です。

●失敗への対応

失敗を恐れるあまり、意欲的に学校生活を送れない児童もいます。結果だけではなく、経過やプロセス、努

4　チーム支援　③

規律ある学級・学校

○　ルールがはっきりしていて、誰もが分かりやすい。

①　できている子を、褒める。しっかり褒める。

②　「こんなことまで．．．？」と思っても、
できないことは、教える。

○　持ち物は、整理整頓。もちろん、教室の中も。

↓

落ち着きのある安心した雰囲気の学級・学校

チームでの対応　校内支援体制の一例

サポートに入る先生が、児童の特徴やねらいを共通理解して、行動する。

- その場では何を目的としているか、理解し協力し合う。
- 学級から取り出して、指導することが 目的ではない。

  在籍学級で学習するには、どんな力を付けさせるか。
- 今はできないが、待って、ねらいに近づける指導を。

試行錯誤しながらの日々です

ご静聴ありがとうございました。